オリンピック・パラリンピック教育
テーマ【文化】

いよいよ今年開催される東京2020オリンピック・パラリンピックは、世界最大のスポーツの祭典です。古代ギリシャのオリンピックではスポーツだけでなく、詩・音楽などの「芸術競技」が行われたこともあります。今年度本校では、「豊かな国際感覚の醸成」にも力を入れてきました。

１学年には学校設定教科である「日本の伝統・文化」の授業があります。この授業では、特に１年を通して「茶道」、「着付け」、「和楽器」、「文芸」などにおいて、体験的な活動を通して、日本人としての自覚と誇りの涵養に努めてきました。そのいくつかを紹介します。

高１　落語教室

９月１１日（水）、落語鑑賞をした後、落語体験を行いました。事前学習で落語についての面白味などを学習してきた成果もあり、今回、本物の落語家さんを生で見ることで、落語のすごさを実感したと同時に、落語の楽しさを改めて感じる良い機会になりました。

今年は、真打（しんうち）の林家時蔵さんを講師としてお迎えしました。
誰もが聞いて分かる落語を披露していただきました。プロの話術に思わず笑いがおこり、生徒は落語の楽しさを十分に味わうことができました。

落語体験では定番の扇子と手ぬぐいを使って何かを表現することを、学年の生代表者がみんなの前で発表しました。
写真はキセルを扱う様子です。生徒はキセルを見た経験はないですが、上手に扇子を扱っていました。

「早口で話す」「人を呼ぶ」そうした表現も落語に求められますが、音をそれらしく表現することも大事な効果の一つです。プロの技術を間近にした生徒は、その文芸の奥深さに魅了されていました。

（令和元年９月１１日）

高１　常磐津（ときわづ）教室

２月２０日（木）の５・６校時、「日本の伝統・文化」の授業で常磐津教室を行いました。「常磐津って何？」。
常磐津とは、日本の伝統芸能である歌舞伎とともに発展した伴奏音楽です。おもに三味線や太鼓、笛を用いて、謡に合わせて音楽を演奏しますが、動物の鳴き声や雨音など様々な音を表現したりする今回の体験教室に、生徒たちは驚きと笑いが絶えませんでした。生徒のみならず教員も初めての経験となりました。

早稲田大学坪内博士記念演劇博物館の方々にもご協力をいただき、常磐津和英太夫　（ときわづ わえいだゆう）さんと常磐津菊与志郎（ときわづ きくよしろう）さんの２名を招いて行いました。

三味線で童謡「ふるさと」を演奏していただきました。「ふるさと」は、「日本の伝統・文化」の琴の授業や福祉の授業で学習した曲なので、生徒たちは、一緒に歌いながら楽しみました。

くもの化け物が登場する音楽のところでは、左の写真のように、くもの糸が生徒たちへ向けて放たれました。突然のサプライズに生徒たちは歓声を上げて喜んでいました。昔の人の娯楽を現代でも楽しめるということを肌で感じたようです。

（令和２年２月２０日）